

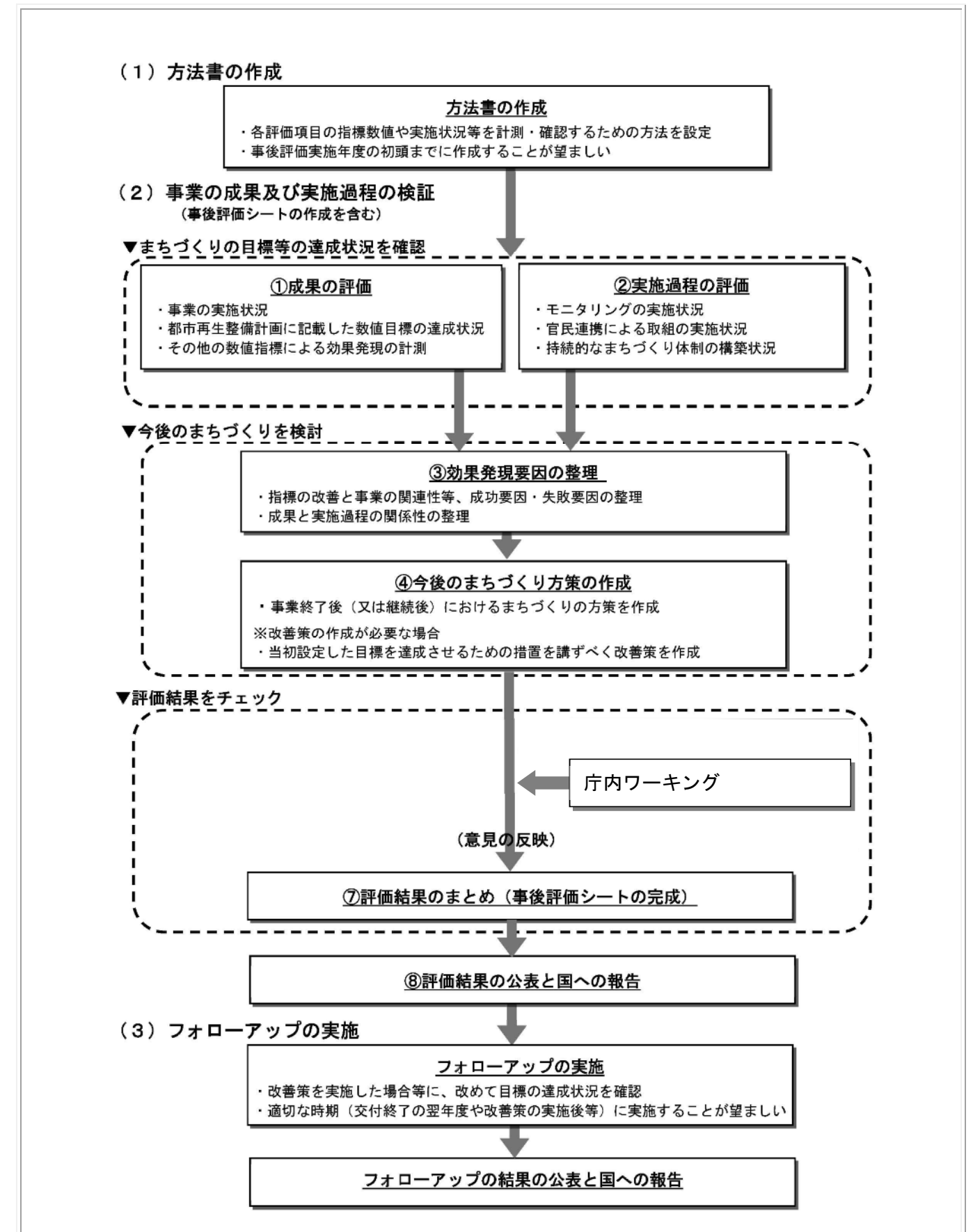
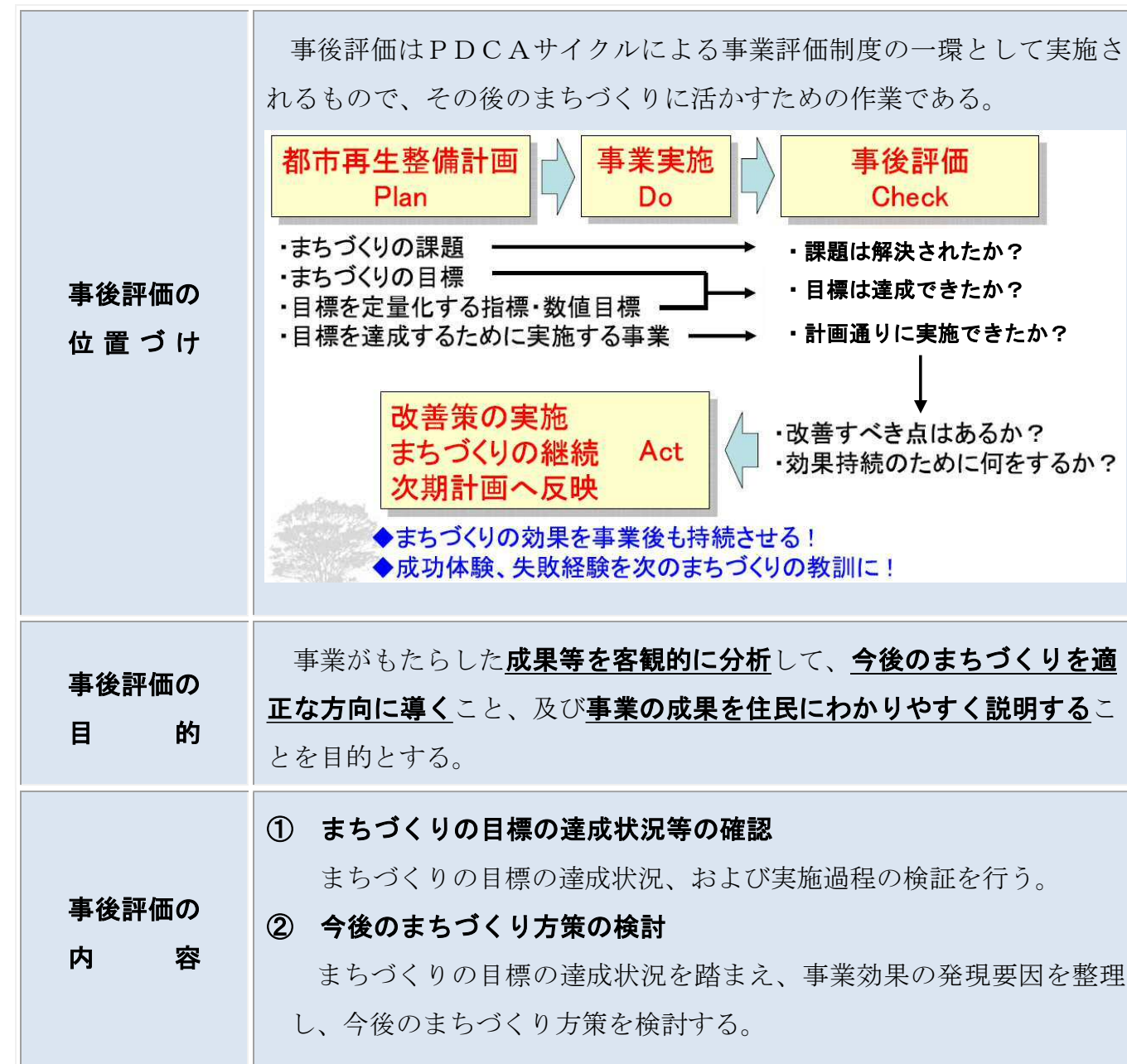
都市再生整備計画 本庁舎周辺地区

事後評価

1. 事後評価制度の概要	P	1
2. まちづくりの経緯（都市再生整備計画の概要）	P	2
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）	P	6
4. 効果発現要因の整理	P	10
5. 今後のまちづくり方策の検討	P	11

令和5年12月
越前市 都市計画課

1. 事後評価制度の概要



2. まちづくりの経緯（都市再生整備計画の概要）

【まちづくりの経緯及び現況】

- ・本市の市街地は北陸地方が越の国と呼ばれた頃から拓けた地域で、国府が置かれ越の国の政治・経済・文化の中心として栄えたことから、社寺・商家・町屋等の歴史的文化的な建物が数多く残されている。昭和 50 年代からは郊外化の進展により、市街地中心部の居住人口や事業所・従業員数の現象が進み、さらに空き家の増加により都市としての求心力が低下している。
- ・まちなか観光の推進に向けて、社寺・商家・町屋の家並みを活かした道路の高質化や住宅の外構修景、伝統工芸を活かしたクラフトツーリズムの実施等、人とまちと歴史が感じられるまちなか観光を積極的に推進している。
- ・暮らしやすいまちに向けては、住まいに関する支援や、憩いの森・憩いの広場（遊具）を備え日常的に楽しく集える公園の再整備等により、暮らしの質が高いまちなか居住を推進している。
- ・にぎわいづくりに向けては、土蔵を活かして整備した蔵の辻（広場）を中心に、市民や商店街が中心となって定期的な催しが行われている。
- ・一方、市役所本庁周辺は公共公益施設や生活利便施設、鉄道やバスの公共交通を始めとする都市機能が集積しているものの、施設の老朽化や機能不足、人口減少社会による施設の稼働率の低下が懸念されている。
- ・このようなことから新庁舎建設等を契機に、本地区に隣接する周辺との一体的なまちづくりに向け、市民との協働による「まちの顔づくり」の推進や、若い世帯等の定住を促進する「まちなか居住」の推進、多様な主体の連携・交流による「にぎわいの再生」が求められている。

【まちづくりの課題】

「まちの顔」となる本庁舎周辺のまちなかを中心として、市民生活を豊かにする高次都市機能や地域都市機能の充実、公共交通を中心とするネットワークの構築により、まちなかや周辺部および農山村部がネットワーク化された、「持続可能なネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指す必要がある。

課題1：都市施設の更新による都市機能誘導区域の機能及び求心力の向上

- ・本市の中心的な都市施設の多くが経済成長期以前に建設されており、老朽化によるサービス環境の低下や交流の場としての機能不足を改善する必要がある。
- ・都市機能誘導区域では、新庁舎の現在地建設（H29 年～H31 年）、武生中央公園の再整備（H27 年～H29 年）など複数の大規模プロジェクトを計画・実施しており、これらのまちづくりを絶好の契機として捉え、都市機能誘導区域の再生を図る必要がある。
- ・市街地に集積している社寺・伝統工芸・町屋の家並み、JR 武生駅から総社に至るシンボリックな通りは、本市の“まちの顔”となりうるものであるため、歴史文化資源の保存と活用・街並みづくりを行う必要がある。
- ・本庁舎周辺は狭い道路が多くアクセスや回遊が不便な状況であるため、道路改良等により郊外部からのアクセス性向上と市街地内の回遊性向上を図る必要がある。

課題2：誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進

- ・少子高齢化が進む中、誰もが安心して暮らせるように、交流や憩いの場の創出や健康意識を高める活動等、安全に歩ける道路環境の整備と合わせて、日頃から外出しやすい環境づくりを進める必要がある。

課題3：にぎわいの創出と広域からの来訪者を誘引するまちなか観光の推進

- ・令和 6 年春に越前たけふ駅の開業が予定されていることから、市街地内の歴史文化資源を活用した通年型のまちなか観光ツールの開発と、多様な主体との連携が必要である。

【まちづくりの目標】

大目標：多様かつ高次の都市機能を提供する中心拠点の形成

目標1：本庁舎建設をまちなか再生の契機としたまちの顔づくり

目標2：住みやすい暮らしの再生

目標3：歴史文化や伝統産業を活かしたにぎわいの再生

【計画期間】

H30 年度～R4 年度

【目標を定量化する指標】

指標1：市民交流施設の利用者数

指標3：活性化に寄与するイベントの回数

指標2：市全体の人口に占める地区内人口の比率

指標4：観光入込客数

【計画区域の整備方針】

整備方針1：本庁舎建設をまちなか再生の契機としたまちの顔づくり

- ・中心市街地への来街者を迎え入れる、安全で分かりやすいアクセス道路の整備
- ・周辺住民が安全で安心して歩ける歩行環境の整備

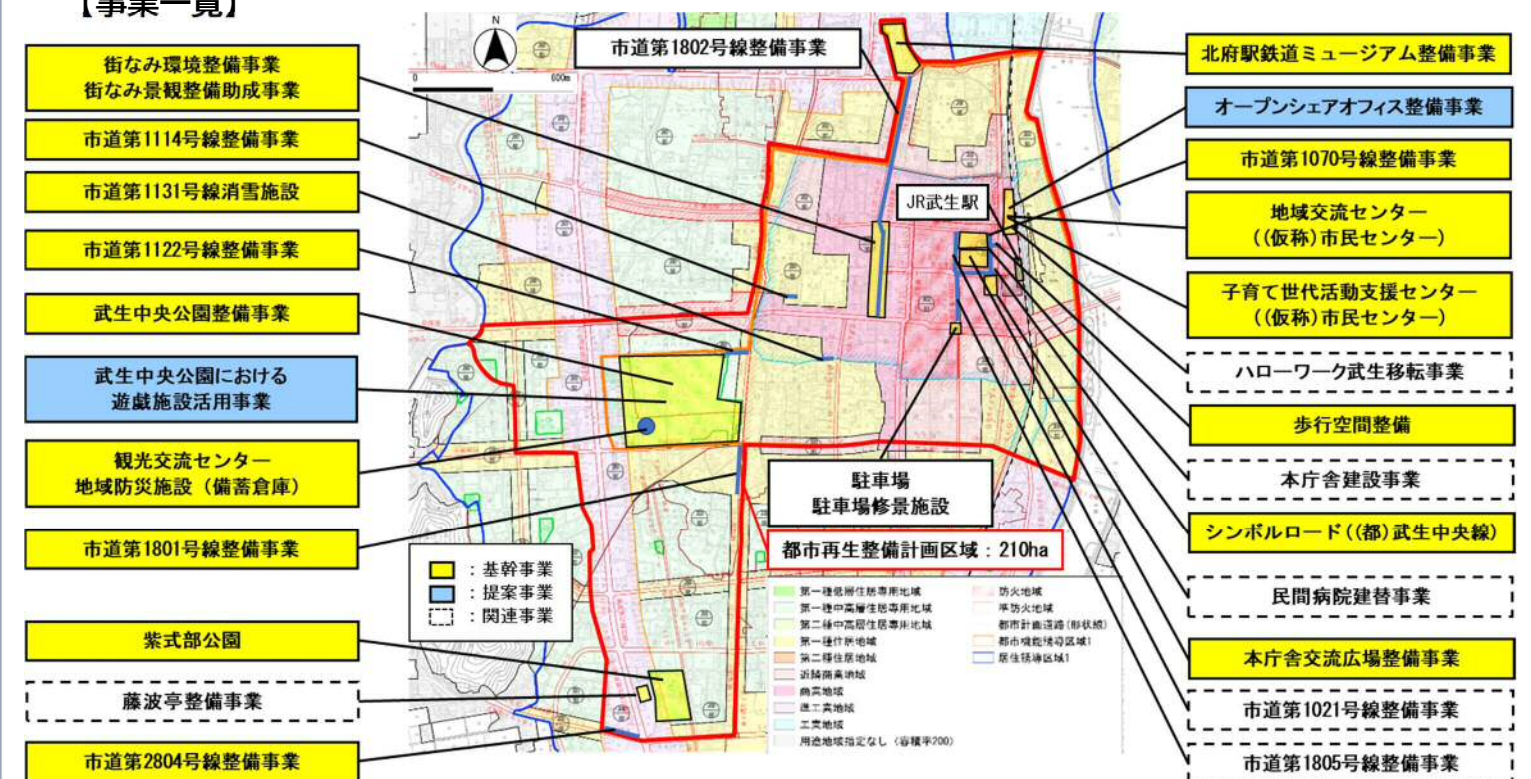
整備方針2：住みやすい暮らしの再生

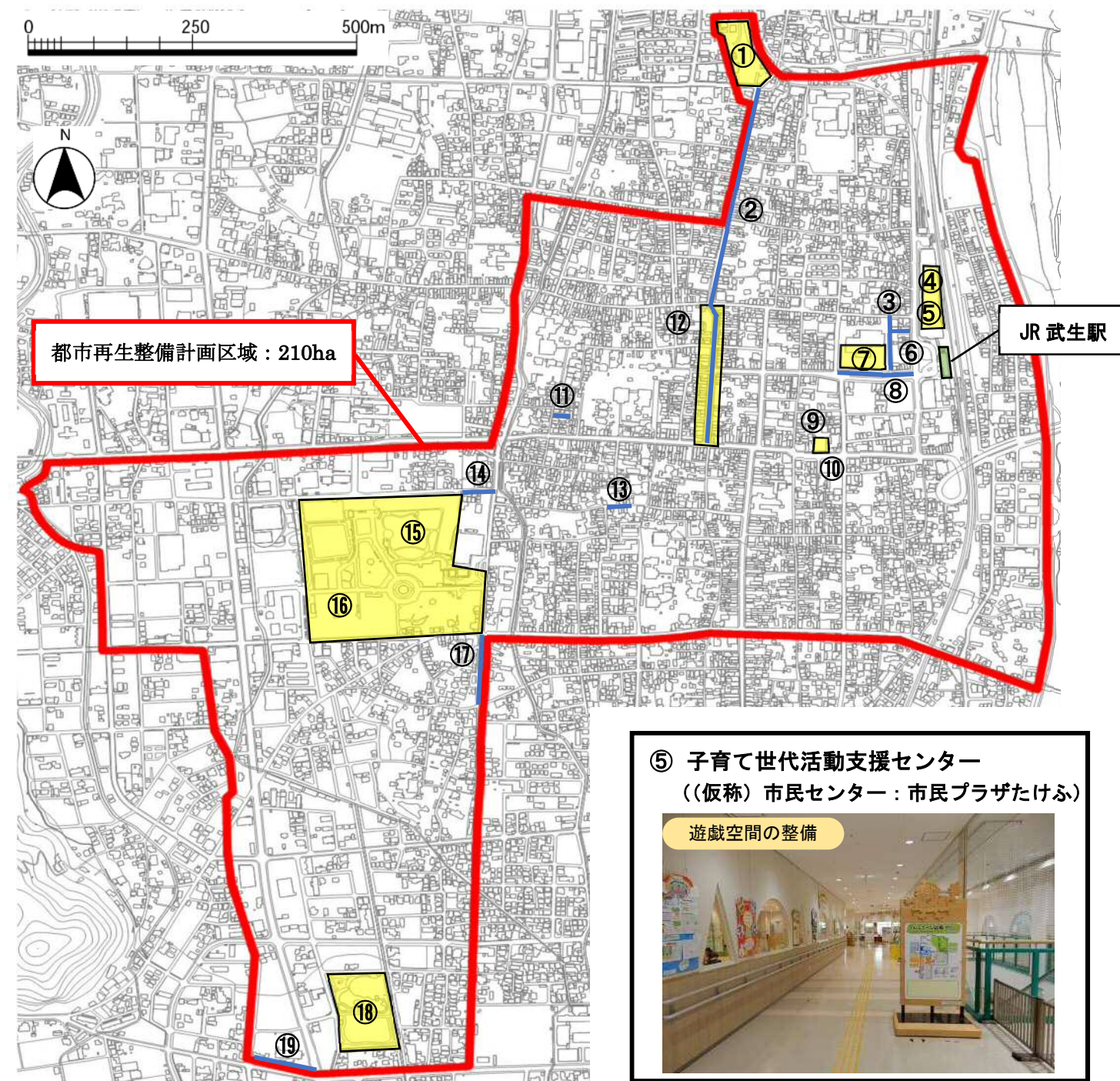
- ・居住環境の向上
- ・民間活力を活用した良質な住宅の供給促進
- ・まちなか居住を支える地域医療や地域コミュニティの形成

整備方針3：歴史文化や伝統産業を活かしたにぎわいの再生

- ・市民や観光客が日常的に憩える広場の整備
- ・広域からの観光客を中心市街地に誘引すべく、歴史的街並みの景観保全や修景整備

【事業一覧】





① 広場（北府駅鉄道ミュージアム）



② 市道第 1802 号線整備事業



③ 市道第 1070 号線整備事業

④ 地域交流センター
（（仮称）市民センター：市民プラザたけふ）⑤ 子育て世代活動支援センター
（（仮称）市民センター：市民プラザたけふ）

⑥ 歩行空間整備



⑦ 本庁舎交流広場整備事業



⑧ シンボルロード（（都）武生中央線）



⑨ 駐車場

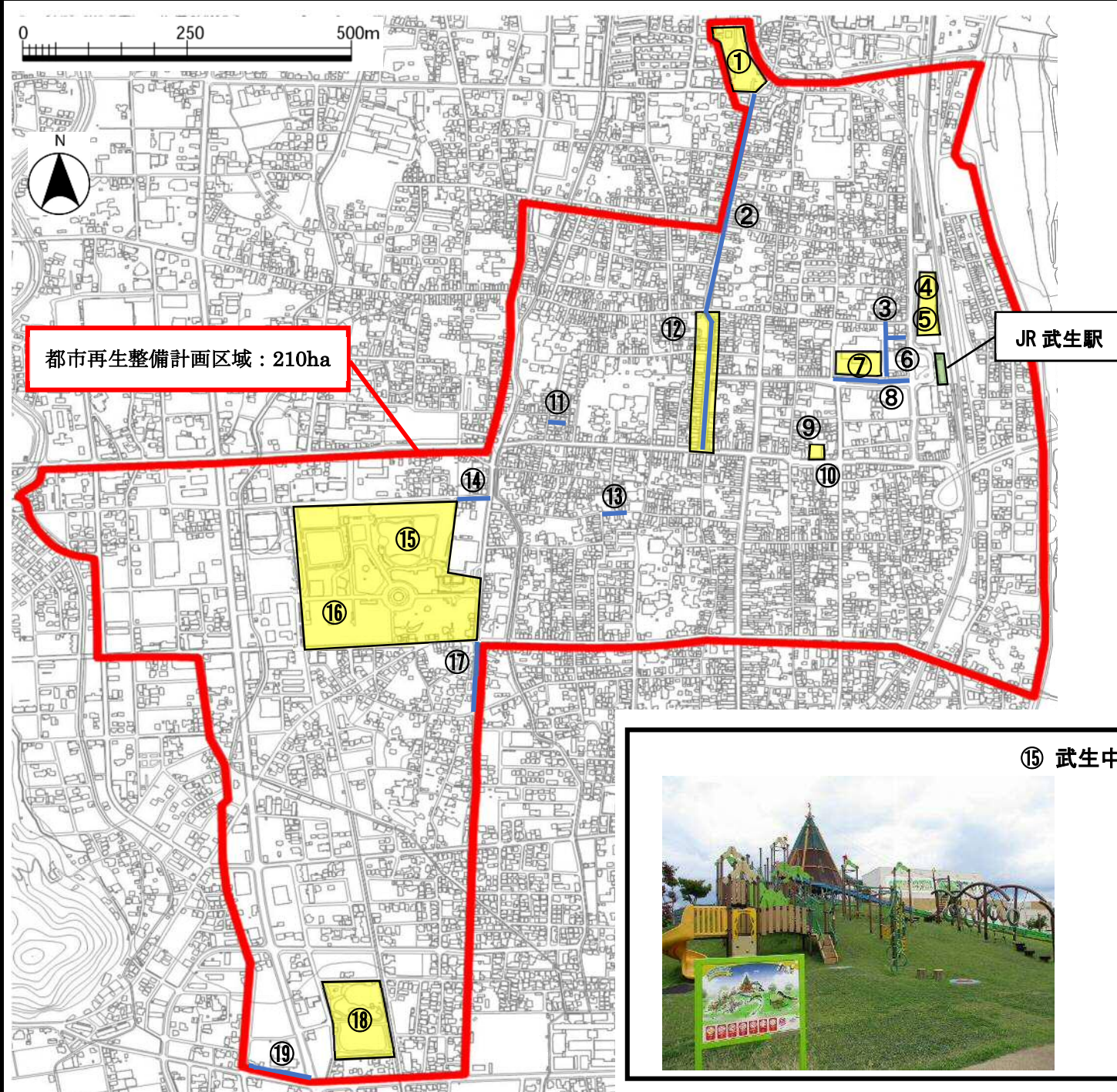


⑩ 駐車場修景施設



⑪ 市道第 1114 号線整備事業





⑫ 街なみ景観整備助成事業



街なみ調和に関する新築・改修

⑬ 市道第 1131 号線消雪施設



消雪ポンプの改修

⑭ 市道第 1122 号線整備事業



自転車・歩道の設置

⑮ 武生中央公園



遊戯施設の機能拡充



⑯ 観光交流センター・地域防災施設（備蓄倉庫）



施設・備蓄倉庫の新設

⑰ 市道第 1801 号線整備事業



歩行空間の確保

⑱ 紫式部公園



釣殿、藤棚などの整備

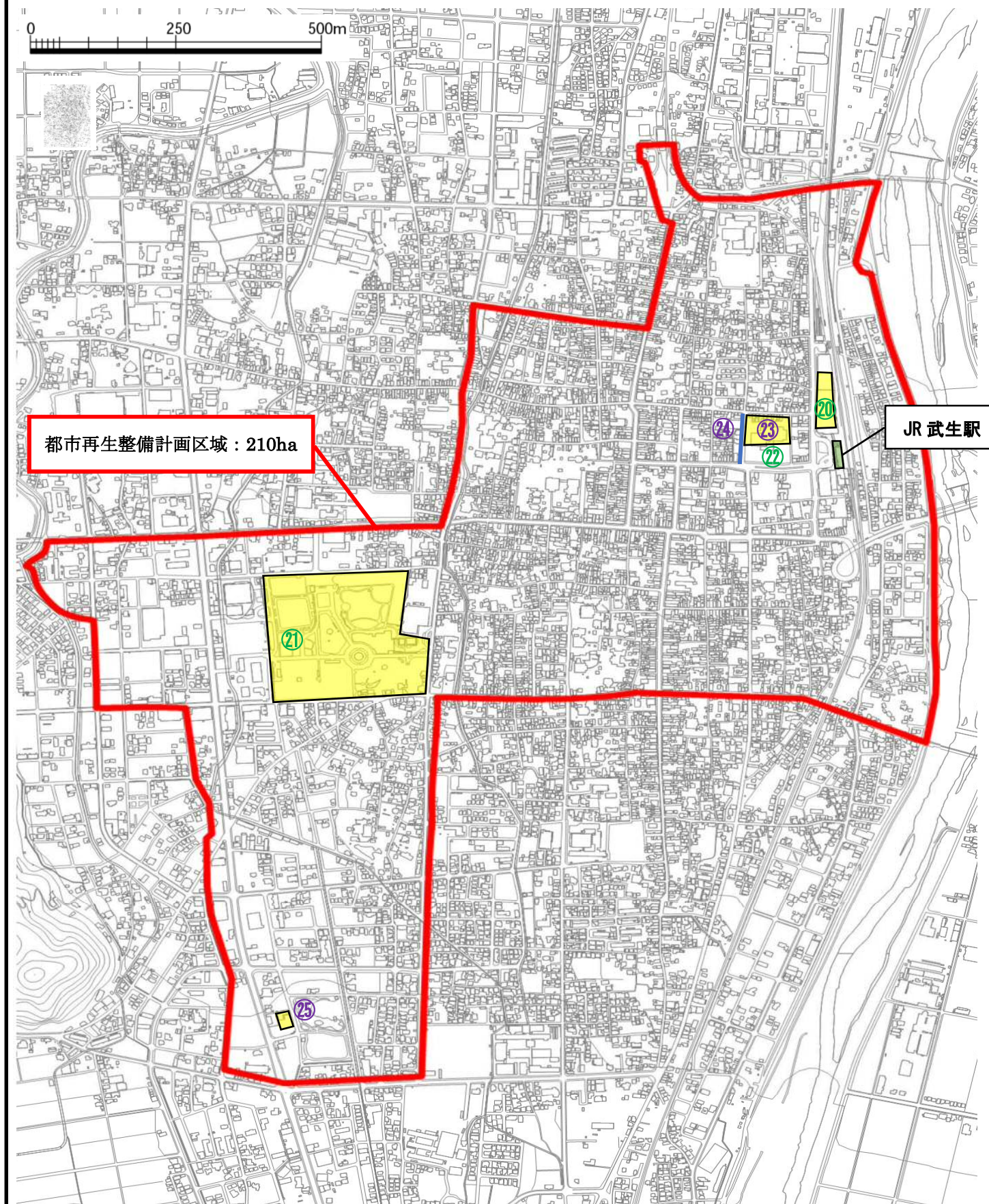


⑲ 市道第 2804 号線整備事業



車道の舗装

事業内容③（提案・関連事業）



【提案事業】

②① オープンシェアオフィス整備事業



オープンシェアオフィスの整備

②① 武生中央公園における遊戯施設活用事業



遊戯施設(遊園地)の整備

②② オープンスペースを活用した賑わい創出事業



庁舎前広場の活用

その他提案事業

- ・ まちなか居住推進事業
- ・ 事後評価

【関連事業】

②③ 本庁舎建設事業



庁舎の新設

②④ 市道第 1021 号線整備事業



歩行空間の確保

②⑤ 藤波亭整備事業



資料館としての改修

その他関連事業

- ・ 民間病院建替事業（誘導施設）
- ・ ハローワーク武生移転事業
- ・ 道路事業：市道第 1026 号線
- ・ 道路事業：市道第 1805 号線
- ・ 道路事業（街路）：（都）河濯線

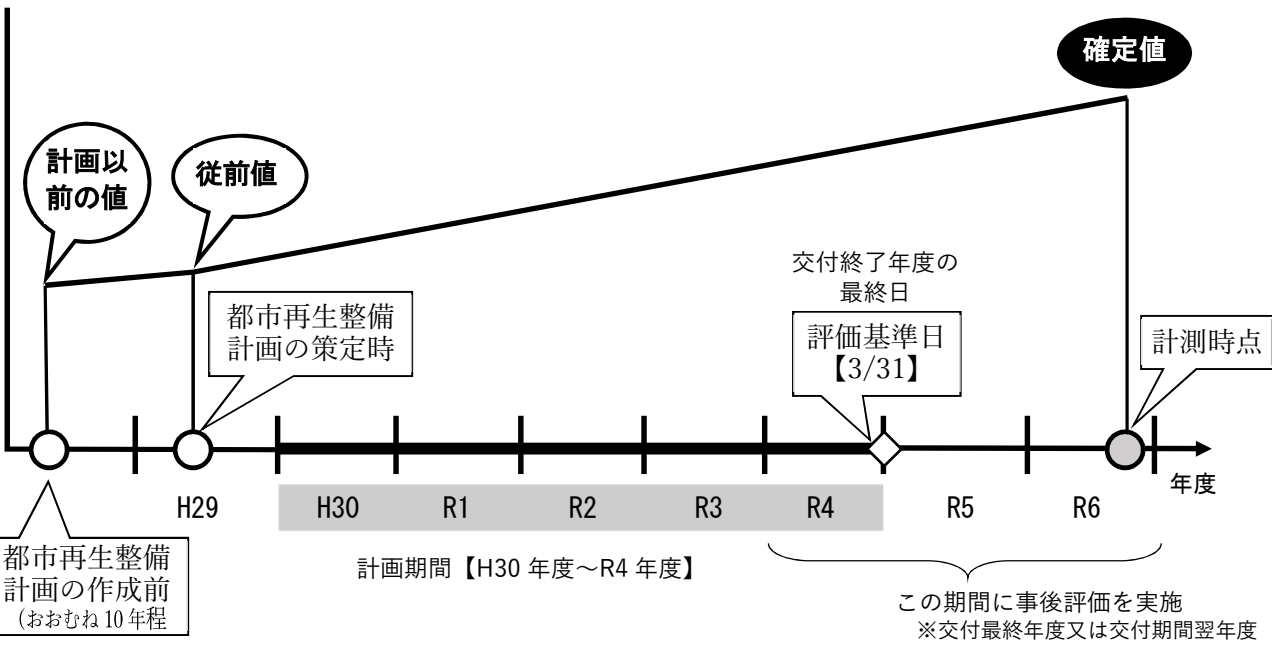
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）

指標	単位	従前値 (基準年度)	目標値 (基準年度)	評価値 (基準年度)		目標達成度
1. 市民交流施設の 利用者数	人/年	65,707 (H27 年度)	108,000 (R4 年度)	174,367 (R4 年度)	確定 ●	○
					見込み	
2. 市全体の人口に 占める地区内人口の比率	%	6.67 (H29 年度)	6.67 (R4 年度)	6.10 (R4 年度)	確定 ●	△
					見込み	
3. 活性化に寄与する イベントの回数	回/年	58 (H27 年度)	96 (R4 年度)	100 (R4 年度)	確定 ●	○
					見込み	
4. 観光入込客数	万人/年	243 (H30 年度)	260 (R4 年度)	246 (R4 年度)	確定 ●	△
					見込み	

■ 目標達成度の評価の基準

目標達成度の評価の基準	達成度
評価値が目標値を上回った場合	○
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

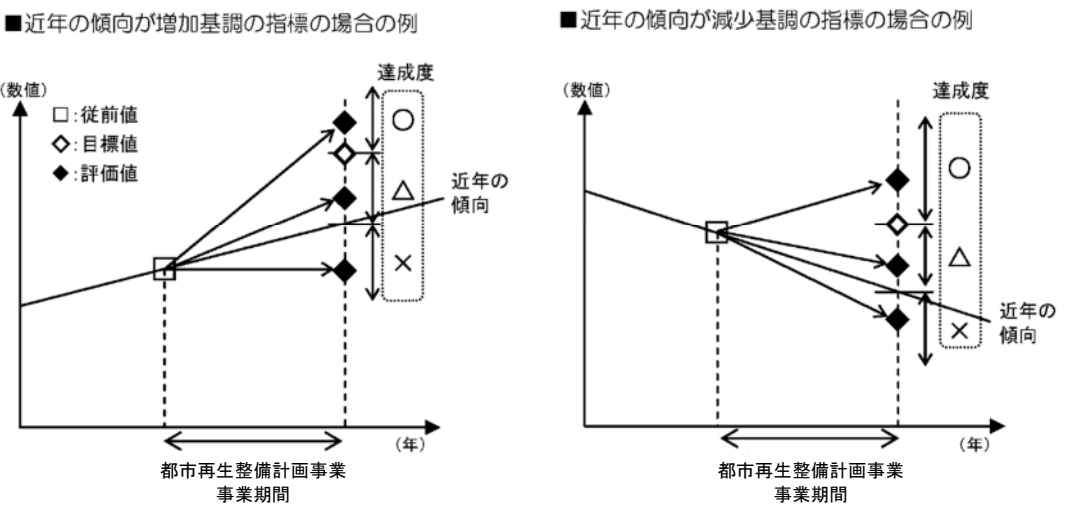
■ 評価基準日の考え方



【参考：目標達成度の考え方】

- ・数値目標が事後評価の時点で達成されたか否かは、「達成度」をもって検証する。
- ・「達成度」は○、△、×の記号により評価を行うが、その概念は下図に示す通り、目標値（◇）と評価値（◆）との間の差の大きさ（絶対値）と位置関係（目標値よりも上か下か）により市町村が判断するものとしします。

評価の基準	達成度
① 評価値が目標値を上回った場合	○
② 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
③ 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合	×



- ・なお、○、△、×を判定する目安として、次の式による「達成指数」を参考にしてもよいです。
$$\text{達成指数} = \frac{\text{評価値}}{\text{目標値}}$$
 - ※評価値：事後評価に用いる値、目標値：事後評価時に目標として設定した値
 - ※達成指数が1の場合に目標が達成され、1より離れるに従い、目標を達成している（判定＝○）、又は目標を達成していない（判定＝△又は×）という意味になります。
 - ※指標の性格や目標の設定の仕方により達成指数の解釈が異なるので、達成指数によって目標の達成・未達成を判別する場合には注意が必要です。例えば、近年増加基調である事故発生件数の減少を指標として設定している場合は、値が1よりも小さいほど目標を大きく達成していると解釈できます。
 - ※目標値が0の場合等においては、適宜、式を定義してよいです。
- ・この「達成指数」は、あくまでも市町村が「達成度」（○、△、×）を判定するための参考となる考え方であり、必ずしも指標の数値を添付様式に記入したり、公表する必要はありません。「達成指数」を用いて判定を行うかどうかについても市町村の任意です。
- ・都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況、数値目標以外の効果発現状況の結果は、今後のまちづくり方策の作成の中で改善策を追加作成すべきか否かの判断材料となります。

（出典：都市再生整備計画事業評価の手引き H29 年 3 月策定 P7-11（国土交通省））

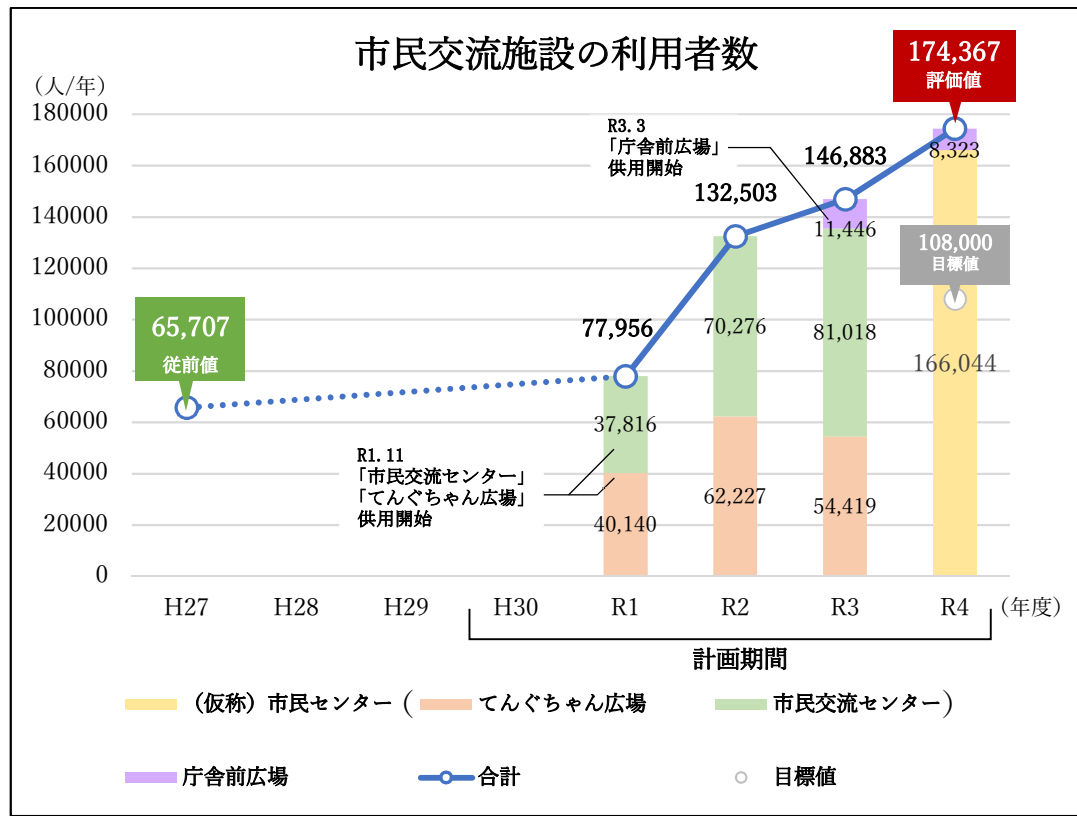
指標 1：市民交流施設の利用者数

従前値 (H27 年度)	目標値 (R4 年度)	評価値 (R4 年度)	目標達成度
65,707 人/年	108,000 人/年	174,367 人/年	○

【指標の定義】
新庁舎の市民利用機能および庁舎前広場と（仮称）市民センターを利用する利用者数

【目標の達成度に関する検証】

- 「本庁舎建設をまちなか再生の契機としたまちの顔づくり」の推進に向けた取組みとして、本庁舎交流広場整備事業や（仮称）市民センター（地域交流センター・オープンシェアオフィス、子育て世代活動支援センター）の整備を実施し、様々な世代の地域住民が集い、交流・活動する場を整備した。
- これらの事業により、数値指標として設定した「市民交流施設の利用者数」は、H27 年度には 65,707 人/年であったが、R3 年度には目標値（108,000 人/年）を超える 174,367 人/年まで増加し、目標を達成することができた。
- 利用者数増加の主な要因としては、テレワークの普及等により市民交流センター内の会議室利用（貸館部分）の需要が高まったためと考えられる。
- 引き続き地域住民の活動の促進と各団体間の連携強化により、多世代の交流促進とまちなか再生に向けた取組みを積極的に展開する必要がある。



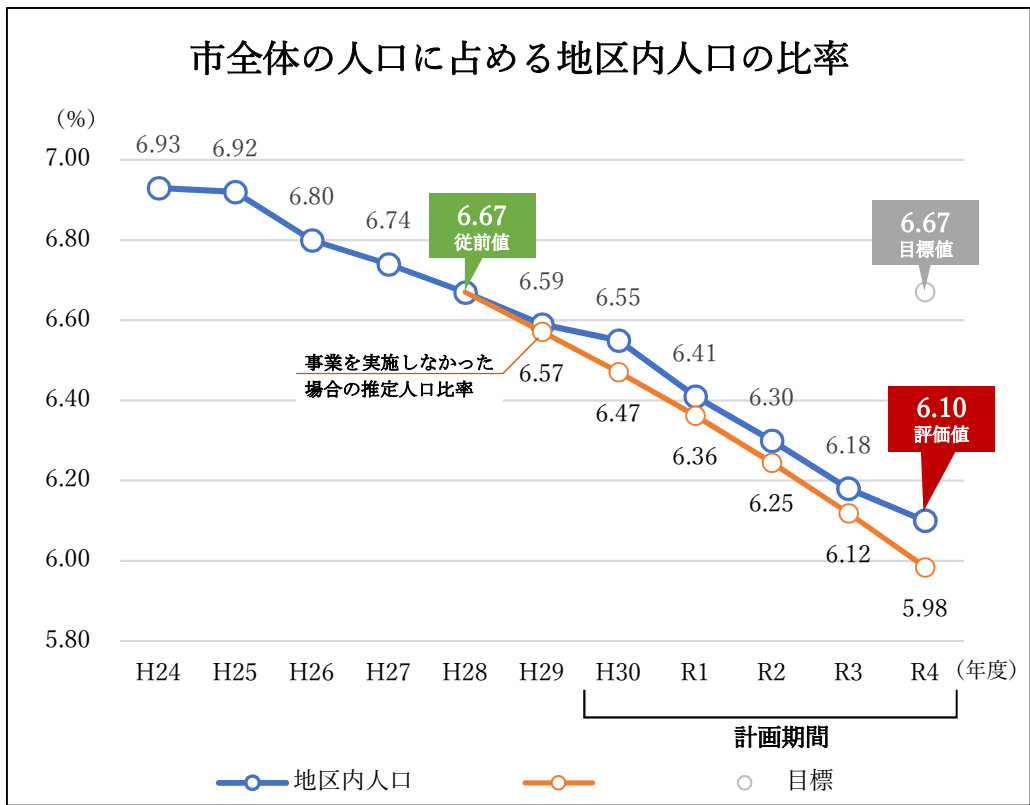
指標 2：市全体の人口に占める地区内人口の比率

従前値 (H29 年度)	目標値 (R4 年度)	評価値 (R4 年度)	目標達成度
6.67%	6.67%	6.10%	△

【指標の定義】
住民基本台帳に基づく市全体人口と地区内人口の比率

【目標の達成度に関する検証】

- 減少傾向にある市全体の人口に占める地区内人口比率の維持に向けた取組みとして、（仮称）市民センター（地域交流センター、子育て世代活動支援センター）、公園等の整備の他、家賃補助等の制度を充実し、住宅建設及び供給の促進、良好な集合住宅の供給、居住環境の改善を図るとともに、若い世代の居住推進を図ったことで一定の成果が見られたが、依然として人口減少が止まず目標値は達成できなかった。
- 一方、事業を実施しなかった場合の地区内人口の比率（計画期間前の 5 年間（H25 年から H29 年）のトレンドから推定）と比較すると、減少傾向はやや緩やかとなった。
- 今後も定住に向けた取組みを継続する必要がある。



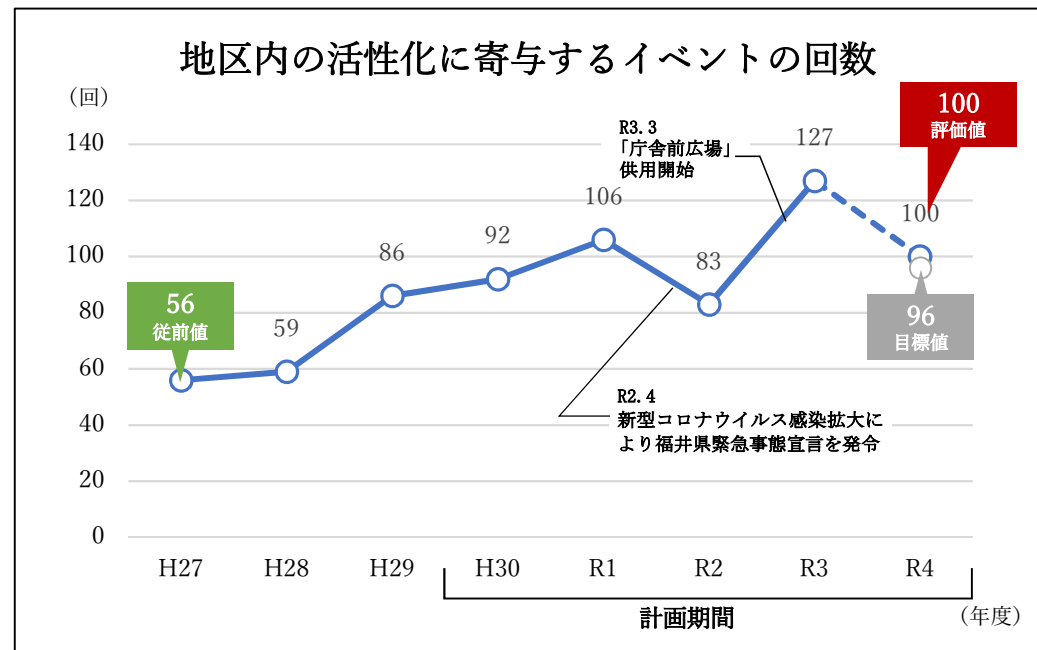
指標 3：活性化に寄与するイベントの回数

従前値 (H27 年度)	目標値 (R4 年度)	確定値 (R4 年度)	目標達成度
58 回	96 回	100 回	○

【指標の定義】
地区内の活性化に寄与するイベント

【目標の達成度に関する検証】

- ・歴史文化や伝統産業を活かしたにぎわいの再生を目的に、地域住民や観光客等の交流・活動の場として庁舎前広場や（仮称）市民センターの整備、武生中央公園や紫式部公園の機能拡充等を実施した。
- ・地区内の活性化に寄与するイベントの回数は、H27 年以降増加傾向にある。R2 年には、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛や行・祭事の中止等によりイベント開催数は大きく減少したものの、翌年の R3 年からは、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも開催可能なイベントを武生中央公園や 3 月に共用開始した庁舎前広場といった屋外施設を中心に開催したことから、イベント開催数は再び増加傾向に転じ、目標値（96 回）を超えるイベントを開催することができた。
- ・イベント開催を希望する団体への支援や、武生中央公園や庁舎前広場の認知度の向上により、継続的なイベント開催の地盤は整いつつある。今後も引き続き、イベントの開催しやすい環境づくりを推進していく。



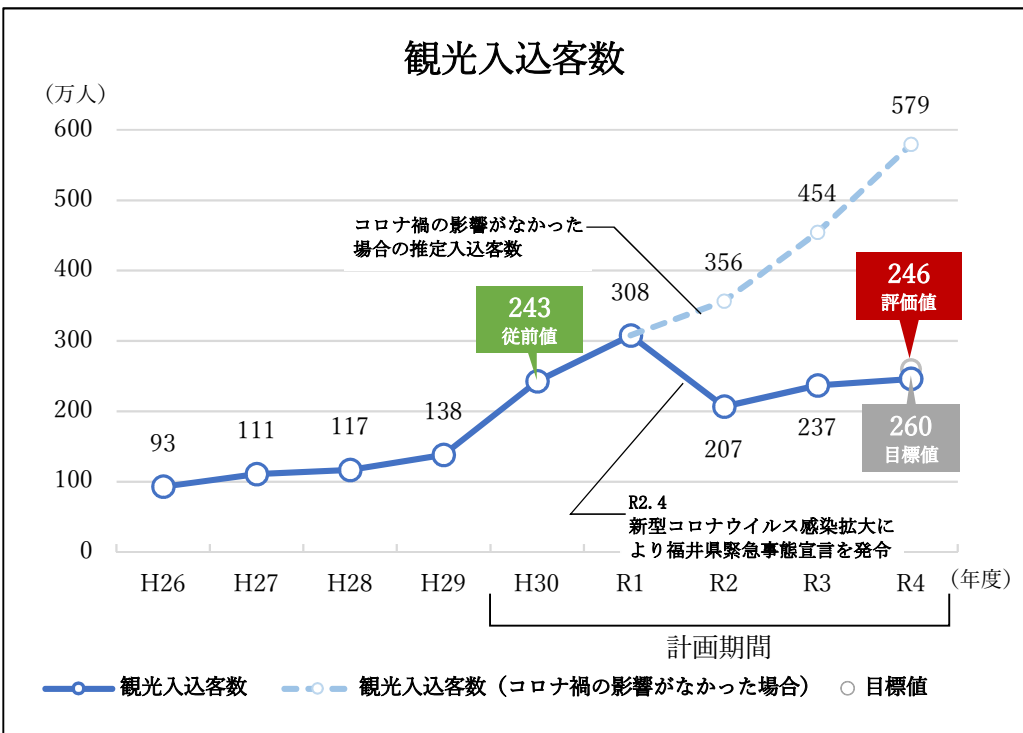
指標 4：観光入込客数

従前値 (30 年度)	目標値 (R4 年度)	確定値 (R4 年度)	目標達成度
243 万人	260 万人	246 万人	△

【指標の定義】
観光入込客数

【目標の達成度に関する検証】

- ・来訪者をまちなかの観光資源や施設へ誘客し、にぎわいの再生を図ることを目的に、市民や観光客が日常的に憩える広場の整備（本庁舎前広場、武生中央公園、市民センターの整備等）や、歴史的町並みの景観保全や修繕整備（紫式部公園の整備、街なみ環境整備事業（総社通り地区）等）を実施した。
- ・その結果、武生中央公園は、令和元年以降県内で最も入込数が多い観光地点となり、市民プラザたけふ（てんぐちゃん広場）は、R2 年以降市内で 2 番目に入込数が多い観光地点となった。
- ・観光入込客数は、計画期間前は微増傾向であったが、計画期間である H30 年以降増加割合が上昇した。R2 年には、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛や行・祭事の中止により入込客数は約 100 万人程度減少したが、R3 年には「武生中央公園」が対前年比+16.3 万人となる 117.2 万人、「紫式部公園」が対前年比+7.3 万人となる 7.5 万人の来訪となるなど、コロナ禍であっても観光等に訪れやすい屋外施設においては、前年の落ち込みから持ち直している観光地点もあり、再び増加傾向へと転じた。
- ・今後も引き続き、観光資源の磨き上げや伝統産業等を活用したイベントの充実による産業観光の推進を図る。



実施過程の評価

【官民連携による取組の実施】

■総社通り景観協議会運営委員会の実施

- ・街並み景観整備助成事業（総社通り地区）に伴いない提出された建築物外観の審査について、まちづくり協議会と連携して行った。

<説明会 概要>

日 時：H30 年 7 月 2 5 日（水）
PM7：00～PM8：30

場 所：風ものがたり 2 階 会議室

参加者：まちづくり協議会運営委員会

まちづくり協議会

越前市役所建設部

越前市都市計画課



<審査の実施 概要>

委員会人数：4 名

構成員の数：60 人

委員会開催回数：24 回（H30～R3 年度）

【持続的なまちづくり体制の構築】

■総社通りまちづくり協議会の形成

- ・総社通りの地域住民が参画する地域まちづくり推進団体が形成され、事業完了後の継続的なまちづくりの土台が構築された。

<概要>

団体の名称：総社通りまちづくり協議会

構成員の数：60 人

活動の目的：景観まちづくり

- 活動の予定：
1. 総社通りまちづくり計画の策定及び行政への提案
 2. 総社通りまちづくり計画に基づく具体的事業の推進、関係機関との調整
 3. 居住者等の交流、連携
 4. その他、目的達成に必要な事項

定量的に表現できない定性的な効果発現状況

■オープンシェアオフィスの整備により、市民団体の連携強化、活動の活性化に寄与した

オープンシェアオフィスには、越前市いきいきシニアクラブ、越前市国際交流協会、越前市自治連合会、越前市身体障害者福祉連合会、NPO 法人のっぽえちぜん、NPO 法人子どもセンターピノキオ、NPO 法人男女平等推進協会えちぜん、越前市日中友好協会、越前市ボランティアセンター運営委員会、ロハス越前など 10 団体が入り、日常的に市民団体等が広く交流・活動することを促進した。



■庁舎前広場の整備により、中心市街地の賑わいづくりに向けた活動の活性化に寄与した

- ・まちなかイベントサポート事業（まちづくり武生株式会社）において、イベント実施団体への継続した支援の取組みと、R3 年度に供用開始した庁舎前広場を始めとした、イベントに活用しやすい環境整備を進めている。
- ・庁舎前広場や蔵の辻、武生中央公園を中心とする各施設を活用したイベントが多様な主体により継続して企画されていることから、にぎわいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。

■北府駅鉄道ミュージアム整備事業により、地域住民等のまちづくりに対する機運の向上に寄与した

- ・北府駅鉄道ミュージアム整備事業に伴い、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施した結果、目標としていた金額を大きく上回り、住民のまちづくりに対する機運の向上や、まちづくり活動に参加する地域住民・団体、民間企業等の増加に寄与している。



4. 効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指 標 名		市民交流施設の利用者数		市全体の人口に占める地区内人口の比率		活性化に寄与するイベントの回数		観光入込客数	
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道第1122号線)	○	・「本庁舎建設をまちなか再生の契機としたまちの顔づくり」の推進に向けた取組みとして、本庁舎交流広場整備事業や(仮称)市民センター(地域交流センター・オープンシェアオフィス、子育て世代活動支援センター)の整備を実施し、様々な世代の地域住民が集い、交流・活動する場を整備した。 ・これらの事業により、数値指標として設定した「市民交流施設の利用者数」は、平成27年度には65,707人/年であったが、令和4年度には174,367人/年まで増加し、目標値(108,000人/年)を上回った。 ・利用者数増加の主な要因としては、テレワークの普及等により市民交流センター内の会議室利用(貸館部分)の需要が高まったためと考えられる。	×	減少傾向にある市全体の人口に占める地区内人口比率の維持に向けた取組みとして、(仮称)市民センター(地域交流センター、子育て世代活動支援センター)、公園等の整備の他、家賃補助等の制度を充実し、住宅建設及び供給の促進、良好な集合住宅の供給、居住環境の改善を図るとともに、若い世代の居住推進を図ったことで一定の成果が見られたが、依然として人口減少が止まず目標値は達成できなかった。	—	・歴史文化や伝統産業を活かしたにぎわいの再生を目的に、地域住民や観光客等の交流・活動の場として庁舎前広場や武生中央公園等の機能拡充等を実施した。 ・地区内の活性化に寄与するイベントの回数は、令和2年には、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛や行・祭事の中止等によりイベント開催数は大きく減少した。翌年の令和3年には、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも開催可能なイベントを武生中央公園や3月に共用開始した庁舎前広場といった屋外施設を中心に開催したことから、イベント開催数は再び増加傾向に転じ、目標値を超えるイベントを開催することができた。	—	・来訪者をまちなかの観光資源や施設へ誘客し、にぎわいの再生を図ることを目的に、した。 ・その結果、武生中央公園は、平成30年以降県内で最も入込数が多い観光地点となり、市民プラザたけふ(てんぐちゃん広場)は、令和2年以降市内で2番目に入込数が多い観光地点となった。しかし、新型コロナの影響が長引くなかで、目標値を達成することができなかった。
	道路(市道第1070号線)	○		×		—		—	
	道路(市道第2804号線)	○		×		—		—	
	道路(市道第1801号線)	○		×		—		—	
	道路(市道第1114号線)	実施中		実施中		実施中		実施中	
	道路(市道第1131号線消雪施設)	○		×		—		—	
	公園(武生中央公園)	—		×		◎		◎	
	公園(紫式部公園)	—		×		◎		◎	
	地域生活基盤施設(広場(本庁舎交流広場))	—		—		◎		◎	
	地域生活基盤施設((北府駅鉄道ミュージアム))	—		—		◎		◎	
	地域生活基盤施設(地域防災設備(備蓄倉庫))	—		×		—		—	
	地域生活基盤施設(駐車場)	—		—		○		◎	
	高質空間形成施設(市道第1802号線)	○		—		○		○	
	高質空間形成施設(駐車場修景施設)	—		—		○		◎	
	高質空間形成施設(シンボルロード((都)武生中央線))	—		—		○		◎	
	高質空間形成施設(歩行空間整備)	○		—		—		—	
	高次都市施設(観光交流センター)	—		—		◎		◎	
	既存建造物活用事業(地域交流センター((仮称)市民センター))	◎		—		—		—	
提案事業	既存建造物活用事業(子育て世代活動支援センター)	◎		—		—		—	
	街なみ環境整備事業(街なみ景観整備助成事業(総社通り)地区)	—		—		○		◎	
	地域創造支援事業(まちなか居住推進事業)	—		×		—		—	
	地域創造支援事業(オープンシェアオフィス整備事業)	◎		—		—		—	
	地域創造支援事業(武生中央公園における遊戯施設活用事業)	—		—		◎		◎	
関連事業	地域創造支援事業(オープンスペースを活用した賑わい創出事業)	—		—		◎		◎	
	事業活用調査(事業評価分析)	—		—		—		—	
	民間病院建替事業(誘導施設)	—		×		—		—	
	本庁舎建設事業	◎		—		—		—	
	ハローワーク武生移転事業	○		—		—		—	
	道路事業(市道第1026号線)	未実施		未実施		未実施		未実施	
	道路事業(市道第1021号線)	○		—		—		—	
	道路事業(街路)((都)河洗濯線)	○		—		—		—	
	道路事業(市道第1805号線)	○		—		—		—	
	藤波亭整備事業	—		—		○		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用・改善の方針	・引き続き地域住民の活動の促進と各団体間の連携強化により、多世代の交流促進とまちなか再生に向けた取組みを積極的に展開する。	住宅取得及び既存住宅改修に対する補助、集合住宅整備の共用部分(緑地空間など)に対して補助、子育て世帯への住宅取得に対する追加支援や家賃補助を行う。	今後も引き続き、イベントの開催しやすい環境づくりを推進し、同程度のイベント数を継続する。	今後も引き続き、観光資源の磨き上げや伝統産業等を活用したイベントの充実による産業観光の推進を図る。
-------------	---	---	--	---

5. 今後のまちづくり方策の検討

都市再生整備計画の課題	達成状況		継続・改善の基本の考え方	想定される事業
・都市施設の更新による都市機能誘導区域の機能及び求心力の向上	達成されたこと	・モニュメントの設置やシンボルロード（（都）武生中央線）の整備、総社通り地区の街なみ環境整備等により、歴史文化資源の保存と活用・街並みづくりを進め、まちの顔づくりを推進した。 ・本庁舎周辺の狭あい道路の車道を拡幅したことにより、郊外部からのアクセス性向上と市街地内の回遊性向上に繋がった。	・ＪＲ北陸線の並行在来線化を契機とした公共交通の利便性向上（交通結節機能の強化、二次交通の充実等）	・王子保～武生駅間新駅駅前広場（交流施設）の整備 ・王子保～武生駅間新駅駐輪場の整備 ・二次交通回遊性向上事業
	残された未解決の課題	・北陸新幹線金沢～敦賀駅間開業（ＪＲ北陸線の並行在来線化）を契機として、武生中央公園や紫式部公園といった観光拠点等へのアクセス性向上に向けて、市民や来訪者が公共交通を利用しやすい環境を整える必要がある。		
・誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりの推進	達成されたこと	・地域交流センターや子育て世代活動支援センターの整備により、親子をはじめ多世代の市民が憩い、交流を図る場を創出した。 ・まちなかや武生中央公園のアクセス道路並びに生活道路において、消雪ポンプの改修を行ったことで、冬期間におけるアクセス性や居住環境（安全に歩ける道路環境）の向上に繋がった。	・交通結節拠点や都市機能にアクセスする道路整備、冬期間の安全な通行を確保する道路整備 ・市民の日常的な憩い・交流の場となる公園施設の機能充実 ・まちなか居住とまちなかにおける多様な交流を促進する取り組みの推進	・道路の舗装工事 ・消雪ポンプ及び散水管の改修 ・武生中央公園の機能拡充 ・近隣・街区公園の機能拡充 ・区域内における住宅取得および既存住宅の改修に対する補助 ・集合住宅・住宅団地の整備に対しての補助 ・子育て世帯等への住宅取得に対する補助支援
	残された未解決の課題	・一定の効果はあったものの、地区内人口の減少傾向は改善されていないことから、今後も定住に向けた取組みを継続する必要がある。		
・にぎわいの創出と広域からの来訪者を誘引するまちなか観光の推進	達成されたこと	・市民や観光客が日常的に憩える広場の整備（庁舎前広場、武生中央公園の整備等）や、歴史的町並みの景観保全や修繕整備（紫式部公園の整備、街なみ環境整備事業（総社通り地区）等）を行い、にぎわいの創出とまちなか観光を推進した。	・観光資源の磨き上げや伝統産業等を活用したイベントの充実による産業観光の推進 ・二次交通の充実やまちなか周遊観光の推進	・武生中央公園の機能拡充 ・千年未来工芸祭の開催 ・まちなか観光サインの改修、新設 ・二次交通回遊性向上事業
	残された未解決の課題	・北陸新幹線金沢～敦賀駅間開業の効果を活かした地域の観光振興や市民や来訪者の多様な交流を促進する空間づくり、環境整備が必要である。 ・北陸新幹線金沢～敦賀駅間開業（ＪＲ北陸線の並行在来線化）を契機とした二次交通の充実により、武生中央公園や紫式部公園といった観光拠点等へのアクセス性を向上させる必要がある。		